

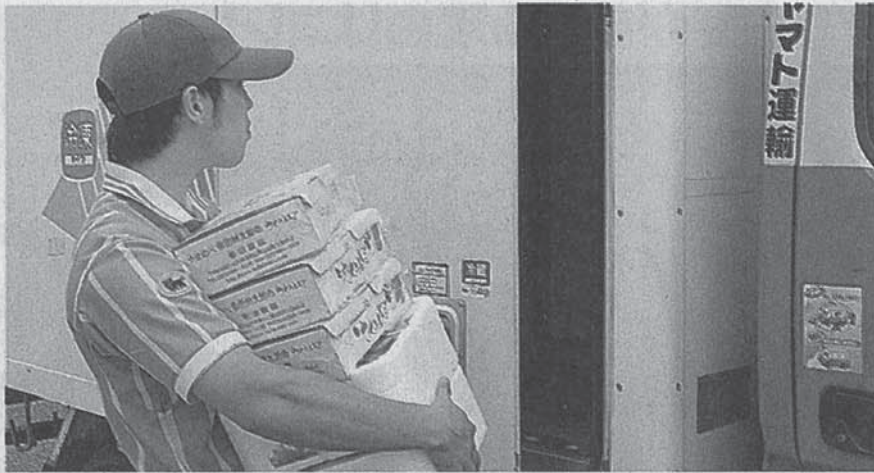
紅姫 今年最高の年に

このコラムを書いている8月12日は「お盆に合わせて届けてほしい」と注文を受けた高級さくらんぼ「真夏のルビー」「紅姫」の出荷や配送の問い合わせの対応で、とても忙しい1日だった。

今年で4年目になる「紅姫」は初年度からの計画通り、順調に販売量を増やすことができた。「紅姫」として出荷するため保存しておく量の確保と、品質の維持にも自信が持てるようになってきた。



特に今年は、さくらんぼの生育状態が、私がさくらんぼに携わっ



てから1番良い年だった。

4月末の開花の時期から好天に恵まれ、花粉の交配も順調で、着果数も多く、摘果や摘葉の作業も、適切な時期に実施することができた。好天のため少々干ばつ気味になっていた園地への灌水と施肥も、最適のタイミングで行うことができたと思っている。

とても良く仕上がったさくらんぼのうち、晩生の「紅秀峰」や「紅てまり」などの品種から選別して、「紅姫」のブランドで販売する分を低温貯蔵庫に保存した。これまでの経験から、着色がよく、大粒なものほど保存性が高く、貯蔵庫から取り出して選別や箱詰めといった作業をする際にも、スムーズに仕事がかかどるこ

0・5度の低温で保存、箱詰めされた「紅姫」は冷蔵されたまま宅配便で送られる＝山辺町元宮の多田農園

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリップパ工場長を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、1・7畝のサクランボ園を経営する。

とを学んだ。

さらに今年は、「紅姫」を受け取った多くのお客様から、称賛の声をいただき、恐縮する場面がたくさんあった。

今年度の「紅姫」は、8月20日を最終出荷日とし、残ったものは処分する予定だ。しかし、今のところ、保存してある数量と、予約注文を頂いている数量がちよとど同じくらいになる、という予想を立てている。

このままの状況が続けば、私がかこれまで18年間さくらんぼを作り続けてきて、多くの意味を含めて今年最高の年になるのではないかと思っている。